

東日本大震災復興NPO支援・全国プロジェクト

《仙台事務局 NO4》

〜〜コンテンツ〜〜

- ・6月24日 山元町でパラソル喫茶を開催
- ・6月27日 ゴーヤ20セットを配りました
- ・7月3日 パラソル喫茶 in 東松島
- ・7月4日 仙台事務所に鈴木克行さん来訪
- ・7月7日 ミスパリ学園エステ隊が山元町に！

お久しぶりです。メルマガを定期的に発信できず申し訳ありません。でも、活動はこれまでになく活発に動いていますのでご安心を！

前号で紹介しましたように、ようやく事務局スタッフ体制も整いましたので、これからは週1ペースで発信できるかと思えます。今日までに様々なイベントを実施しましたので、今号は活動報告のようになりますが、時系列で紹介いたします。

■6月24日 山元町でパラソル喫茶を開催

ワゴン車に荷物を積んで「おひさまくらぶ」を9時に出発、自動車道で一路山元町へ。途中の道路から見る風景は、津波で流れ着いたゴミが農地からまだ撤去されておらず、まだまだ震災の爪あとがそのまま残っていました。10時ちょっと過ぎに仮設住宅の敷地に入ると、黄色のエプロンをつけた「ささえ愛山元」のスタッフ、そして「お客様」が今か今かと、既にスタンバイして私たちを迎えてくれました。

早速用意していたお茶、紅茶、コーヒー、お菓子を出しましたが、「ささえ愛山元」のスタッフが準備した漬物やしそ巻きが、なんとと言っても皆さんに大好評でした。参加者は多少の入れ替わりを含めて30人以上はいたように思います。

時折、椅子に座り、参加者の話に耳を傾けていますと、「〇〇町に住んでいたのっしょ。結構近くに住んでいたんだね。誰誰さんはどうしている？」というような話になり、近隣の方々が集まって入居していることが感じられました。

ある男性は、よほど嬉しかったのか、朝早く山に入り、せっかく採ってきた「ぜんまい」を持って帰れとって手渡してくれました。また、移動販売に来たセブンイレブンの店長さんも「皆さんのこんな笑顔を見たのは初めてです。」とびっくりされ、わざわざ冷たいペットボトルを差し入れてくれたりしました。唯一残念だったのは、強風で肝心のパラソルを立てられなかったこと。次回はぜひパラソルを立て、名実ともに「パラソル喫茶」にしたいものです。



■6月27日 ゴーヤ20セットを配りました

あいにくの雨の降る中、ゴーヤの苗や肥料、プランター、ネットを1セットして荒井地区の仮設住宅にゴーヤを配ってきました。手配して下さったのは「生ごみリサイクルネットワーク」の3人。団体が所有している畑で育てたゴーヤの苗を持ってきてくださいました。



最初に、ゴーヤの育て方を説明した後、各仮設の家々に持ち帰って頂きましたが、培養土が3袋もあったので大変でした。それでも、実がなって収穫する喜び、緑のカーテンとなることを期待して、皆さん傘もささず、何度も往復してゴーヤを設置しました。

■6月28日 上記の仮設所でパラソル喫茶を開催

曇り空、今にも雨が降りそうな中、仙台市内の仮設住宅で初めてのパラソル喫茶を開催、と意気込んだのですが準備段階で雨になり、集会所を使わせて頂くことになりました。長机を2台合わせて4つの島をつくりましたが、すぐに満席となり、すぐにおしゃべりが始まりました。ほとんどの方がコーヒーを望まれ、「美味しい！」の連発。賑やかな集いとなりました。この仮設の特徴は、被災した荒浜地区の方々がごっそり団体で入居されているのでまとまっていること。先日の新聞にも、市内でいち早く自治会長が決まったと報道されていました。しかし、この会長さんのつぶやきが心に残りました。「ここに来る人は元気だけど、閉じこもって外に出ようとしなない人をどうするかなんだよね。それに男性が一人もいないでしょ。男性は昼間、お茶飲みする習慣がないんだよね…」。

今後、この課題解決に向けてパラソル喫茶を展開していくつもりです。

■7月3日 パラソル喫茶 in 東松島



今回も市民協会員、宅老所会員、NALC、WAC、ふれあいネットまつど等、たくさんのボランティアの方が全国から集まって下さってとてもにぎやかなパラソル喫茶でした。

小野市民センターは仮設に移ったり昼間はほとんど人がいないので前回もお邪魔した「ひびき工業団地仮設」内の二か所で12~15時ボランティアの方で作ったサンドイッチとお茶をお出しし住人の皆さんの交流の場所となりました。

今回は近隣の方が差し入れをしてくださったり、住人の方が作業を手伝ってくださったりと、現地の方の積極的な参加も得られたようで、「みんなでつくる」パラソル喫茶になりつつあるのかなあと感じました。また、ボランティア参加者の方も継続して来たいとおっしゃっていたとのこと、非常に心強いです。

次回の東松島でのパラソル喫茶は、なんとビアガーデンパラソル！8月7日の夕方から「夏祭り」をしようということになりました。住民の方々とも打ち合わせの場を持ち、より現地の方に寄り添う形で、子どもも大人も楽しめるパラソル喫茶になりそうです。



■7月4日 仙台事務所に鈴木克行さん来訪

彼は5月に東松島市で開催したパラソル喫茶にも参加されましたが、今回は7/2-3の土日に単身で山元町の「ささえ愛山元」の事務所の清掃に参加していただきました。

東京の商社にお勤めの鈴木さんは、ボランティアを志願していましたが、現地の様子がわからず行動に移せないでいたところ、たまたま町内会仲間がNPO事業サポートセンターの奈良さんと知り合いだったことから本プロジェクトと繋がりました。やはり始まりは「人の繋がり」なのですね。

今回活動された山元町の様子をお聞きしたら「被災した地域に人が戻って来るにはまだまだ時間がかかりそうだが、ささえ愛山元が復活すれば、そこを拠点にまた人が戻ってきて、繋がりや広がりができるのではないか」とのお話をいただき、先が見えない中にも希望の光を感じました。

もともとアウトドアの達人ではあるようでしたが、ボランティアは全く初めてとのこと。まして「泥だし作業」は当然未経験なわけで、何回かやっているうちにスコップ1回で出せる泥の量が把握できるようになり、「これくらいの泥だったら何人で何時間」と予想できるようになったとのこと。

「泥を出していくうちに床が見えたときは嬉しいでしょうね。」と聞きましたら、「そうなんです。」と本当に嬉しそうな顔で答えていただきました。

また今後の活動として、具体的に必要な人材、人数、物資などの提案があれば支援活動がしやすいとの意見をいただきました。鈴木さんのようなボランティアの方がいらっしゃると思うと本当に心強いです。なお、鈴木さんは今週末7/9-10も町内会の方といらっしゃる予定です。

働き盛りの会社員で本業もお忙しいのに、何度も東京から来て頂いて本当にありがとうございました。これからもよろしく願いいたします。

被災者のニーズはやはり現地に行って直接被災者と触れ合っ初めてわかるもの。そういう意味でも本プロジェクトの「パラソル喫茶」はとても有効なイベントであり、できるだけ数多く開催して、被災者の本音のニーズを掘り起こし、支援から復興へとつないでいきたいと、使命感のようなものを感じました。

■7月7日 ミスパリ学園エステ隊が山元町に！

東日本大震災の復興支援として学校法人ミスパリ学園の生徒たちが結成した“復興支援エステ隊”。被災地でエステやメイク、ネイルのサービスを届け被災者の心身を癒そうという試みです。そのエステ隊の皆さんが、NPO事業サポートセンター池本さんの紹介で東京から、そして仙台から、この山元町の「ささえ愛山元」に来てくださいました！当日は、各局のテレビが入り、その様子がニュースでも紹介されました。最初は平均年齢70歳の参加者が多いと思っていましたが、お姑さんに「行ってきなさい」と促された30代～40代の女性も多く参加されたようです。後で聞いた話によりますと、その方々のご主人からは「きれいになったね！」と言われ、7月7日の七夕の日に行われたエステは最高だったようです。皆さんの笑顔、本当に素敵ですね。やはり女性はいつでも「きれい」に対して敏感なんですね。大盛況のうちに終わったとのこと、エステ隊の皆さんにはぜひまた来ていただきたいと思いました。

